

次第

- 令和6年度 第3回 富士見町地球温暖化対策推進委員会 -

1. 開 会

日時：令和6年10月25日（金）

2. 挨 拶

16：00～18：00

3. 議 事

場所：富士見町役場 **4階全員協議室**

（1）区域施策編策定事業の進捗報告

①事業者アンケート結果

②再エネポテンシャル

③野心的目標の設定

④アンケートについての意見交換

（2）具体施策について

①分科会の進捗報告

②施策案の整理

③具体施策についての意見交換

（3）その他

4. その他

5. 閉 会



議事録

■ 区域施策編策定事業の進捗報告

・ 県の地球温暖化対策計画、排出算定・公表制度については本社がある地域で算定されるため、富士見町に事業所のある大企業の取組削減数値は富士見町に入っていない。区域施策編にはこのような企業数値を算入するかどうか。

⇒ 委員会の中で議論すれば良いことだと思うが、二重計上しているわけではないため富士見町で出ている部分は計算に入れても良いと思う。脱炭素ビジョン策定時も同様。

・ 大企業の構成比率が相当大きいと思うが把握はされているか。

⇒ 産業部門における排出量は大体8～9割程度。議論になっている中小企業向けの施策検討が今後の課題。残りの部分は相当少ないが、町ができる計画、やらないといけない計画など国や県ができないローカルな計画が大切。

・ アンケートについては他のところでも使えそうなアンケート内容になっている。また、すでに取り組んでいる事業所が比較的多く感じたが、人的・経済的な理由から取り組めていない事業者もいたことから、富士見町としてもできる施策の余地があると感じた。

・ 今回のポテンシャル推計では一般住宅・公共施設しか建物系は入っていないが、病院・会社・倉庫・集合住宅も推計に入れてみてはどうか。

⇒ 集合住宅については入居者別に分配する計算の考え方が難しいため推計から外している。土地については第1種農地・第2種農地は農地転用許可が難しいため、考えられるのは第3種農地。

・ ポテンシャル計算では屋根置きソーラーについて安全率をみるべきでは。

⇒ 建物の築年数やソーラー発電マップなどの活用と品川区のような他の自治体の安全率を調査し、反映できるものは入れていく。

議事録

・アンケート結果からもわかるが、中小企業や一般家庭の人たちへのモチベーションを変える必要がある。温暖化もそうだが費用対効果など行動変容に繋がる方法を考えるべき。（CO2削減と言わずに経費が減り儲かる方法へ転換する。意識の低さを向上させる。）

■具体的施策について

・事業者分科会には農業分野も含まれているが、農業についてはサブ分科会を作った方が施策の話が進みやすいとの意見について今後の対応をどうするか。スケジュール的に今年度は難しいと思うが予定は。

⇒今年度は来年に向けての業務課題等、段取り部分を他の分科会とも合わせながら決めていきたい。

・パブコメの予定は。

⇒1月の素案の中に分科会で出た意見を盛り込み2月にパブコメができるようなスケジュールとしている。期間としては3週間を予定しているがタイトになった場合は2週間くらいを考えている。

・分科会のミッション（何をアウトプットするのか）が不明確。それぞれの分科会でどういう情報を検討して、提案として出してほしいのか明確にしてほしい。

⇒町が政策としてやること、町と住民・企業が協働してやることなど整理し分科会で報告する。

・次回以降の委員会では資料を事前に配布し、説明は10分程度、ディスカッションの時間をたくさん取ってほしい。

・これまで温暖化に繋がるたくさんの意見が出てきており、災害や農業、健康アプリなどいろいろな部局を巻き込む必要性が出てきていると感じる。関係部署の意見も聞けるような運営はできないか。

⇒各セクションで住民の意見を聞き取ったり計画を策定しているため新たに会を開く考えは今のところないが、庁内にある既存の検討委員会など他部署が集まる機会に議論できるよう調整していきたい。